

# 平成19年度 国土交通行政インターネットモニター

## 『河川災害や防災に対する意識調査』アンケートの結果

国土交通省東北地方整備局では、今後の「地域・住民・行政」が連携した治水対策を図るため、平成19年11月に東北ブロックの国土交通行政インターネットモニター108名に対してアンケート調査を実施いたしました。  
その結果は以下のとおりです。

### < アンケートの概要 >

対象者： 国土交通行政インターネットモニター(東北ブロック) 108名

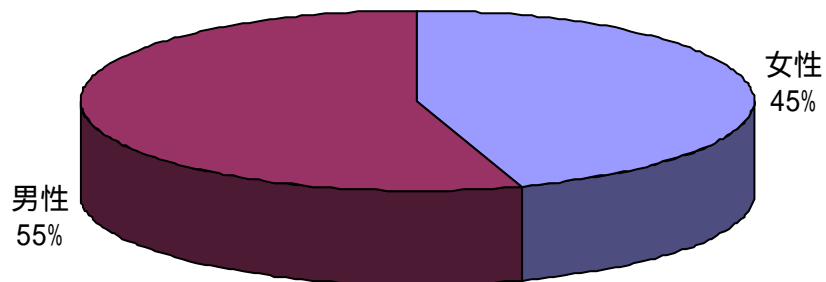
回答率： 91%(98名)

実施期間：平成19年10月26日(金) ~ 11月9日(金)

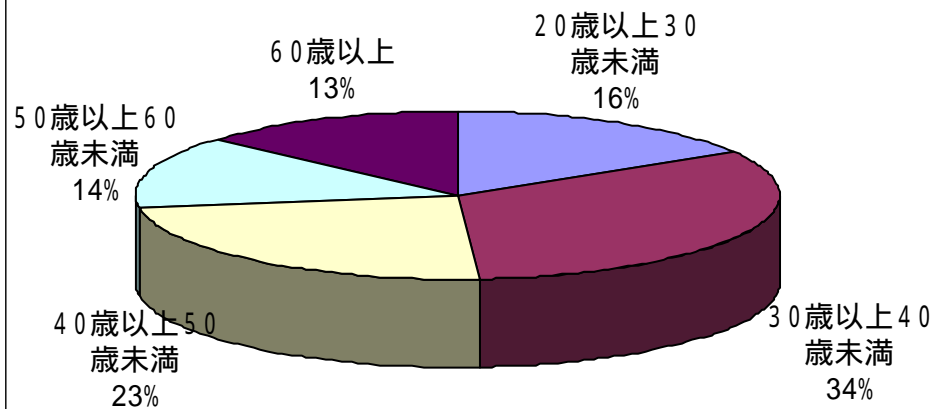
今回、皆様からいただいたご意見につきましては、安全・安心で豊かな社会づくりに向けた今後の治水対策の取り組みにあたって参考とさせていただきます。  
ありがとうございました。

# 1. 回答者属性 (合計98名)

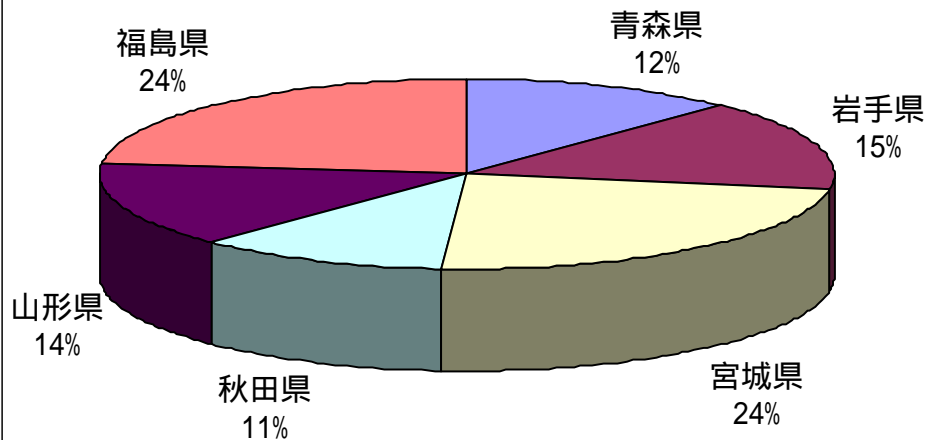
## 性別



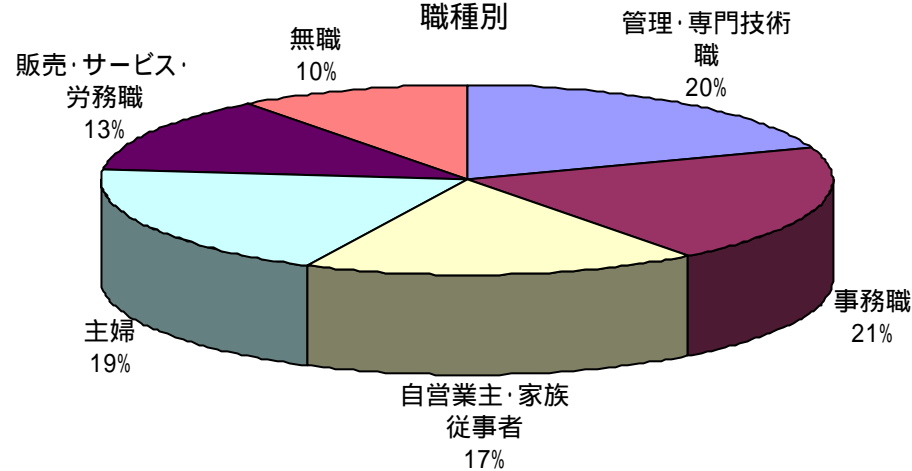
## 年齢層



## 居住県別

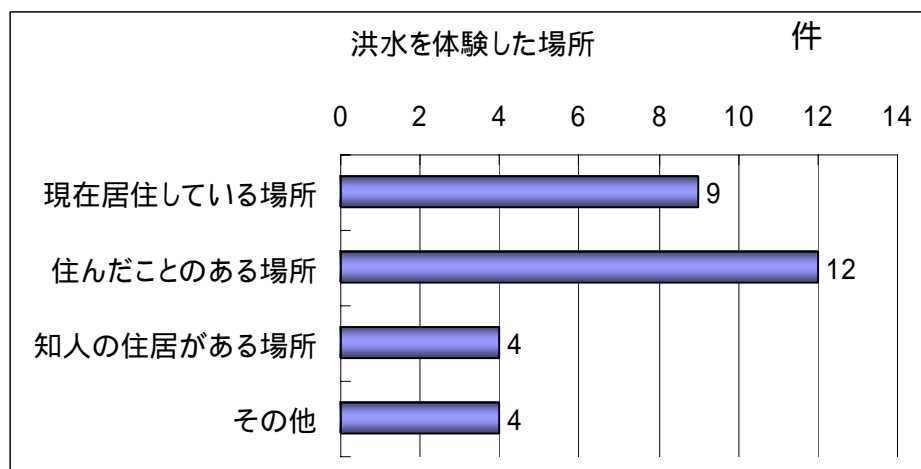
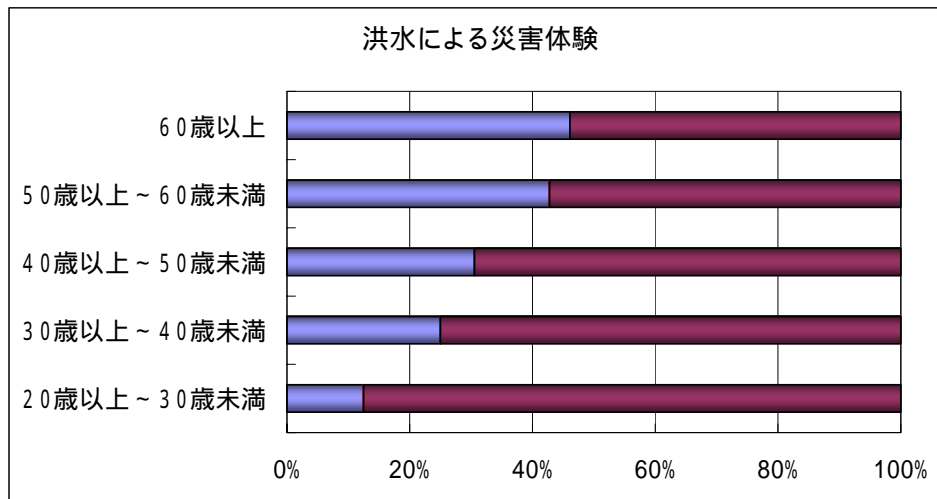
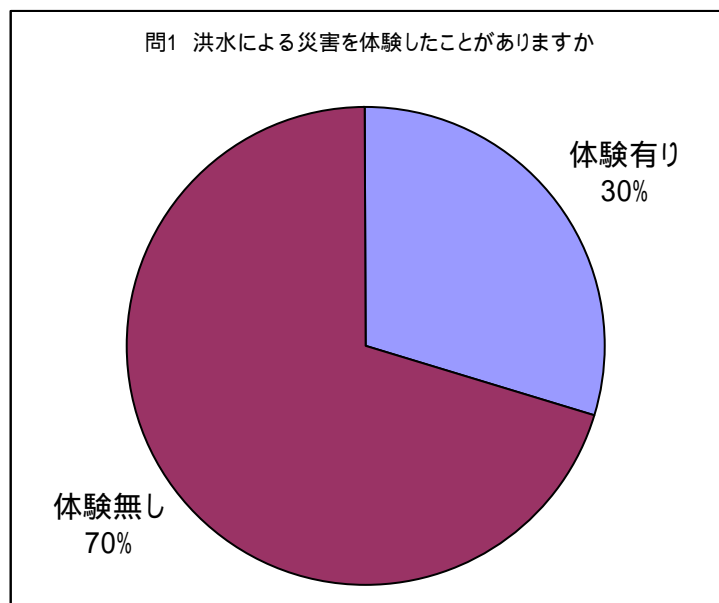


## 職種別



## 2. 洪水による災害を体験したことがありますか

洪水による災害を実際に体験した方の割合は3割であり、年代が若くなるほど体験の割合が低く、30歳未満の体験割合は1割程度である。

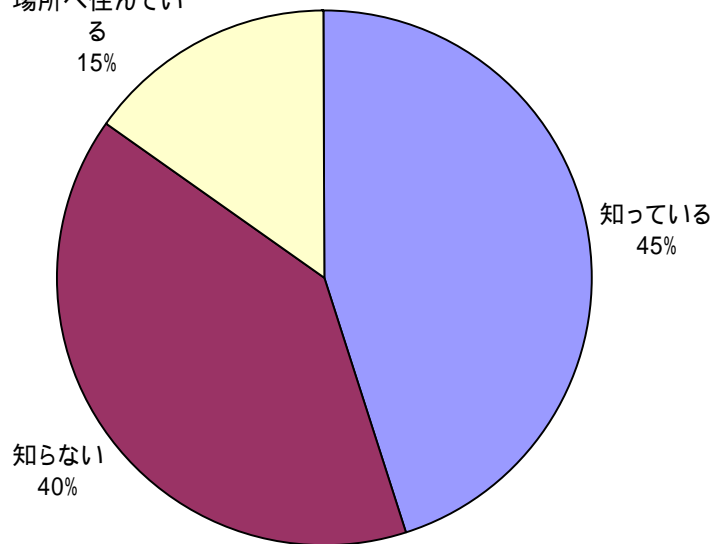


### 3. 過去の洪水被害について

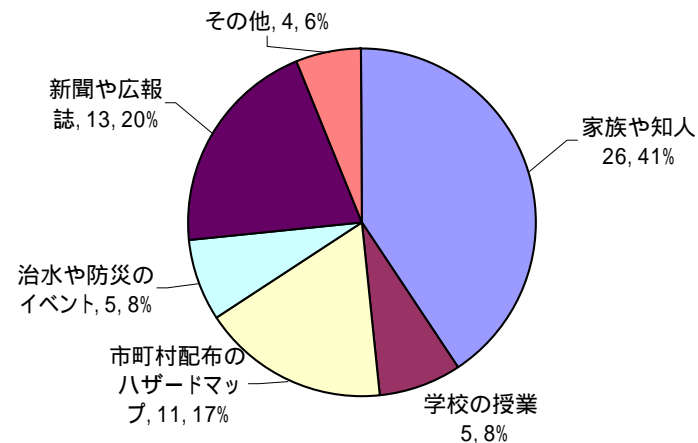
現在の居住地で過去に発生した洪水被害を知っている方の割合は約半数(45%)であり、その情報は「家族や知人」から伝えられている割合が高い。(約4割)  
また、「過去の洪水被害を知らない」と答えた方の約9割が「知りたい」と思っている。

問3 居住地で発生した過去の洪水被害を知っていますか

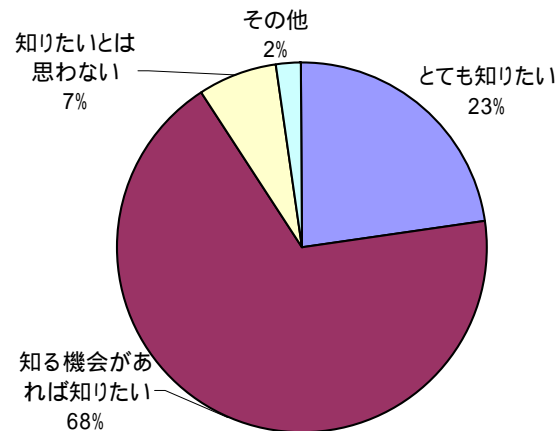
洪水被害のない  
場所へ住んでいる  
15%



問4 過去の被害を何で知りましたか



問5 過去の洪水被害について知りたいと思いますか?

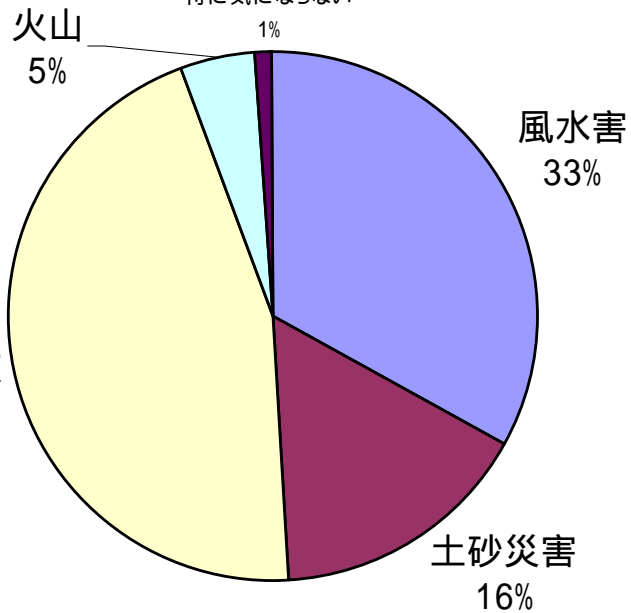


## 4. 日頃意識する自然災害について

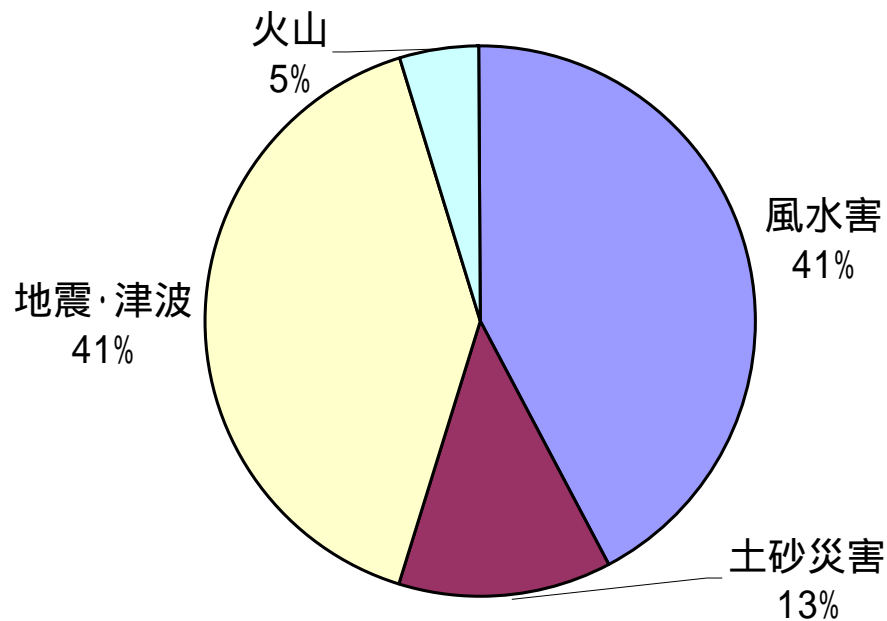
全体では地震・津波による災害への意識が最も高いが、「水害体験者」は風水害と地震・津波が同程度の割合となっている。

問6 日頃意識する自然災害

特に気にならない



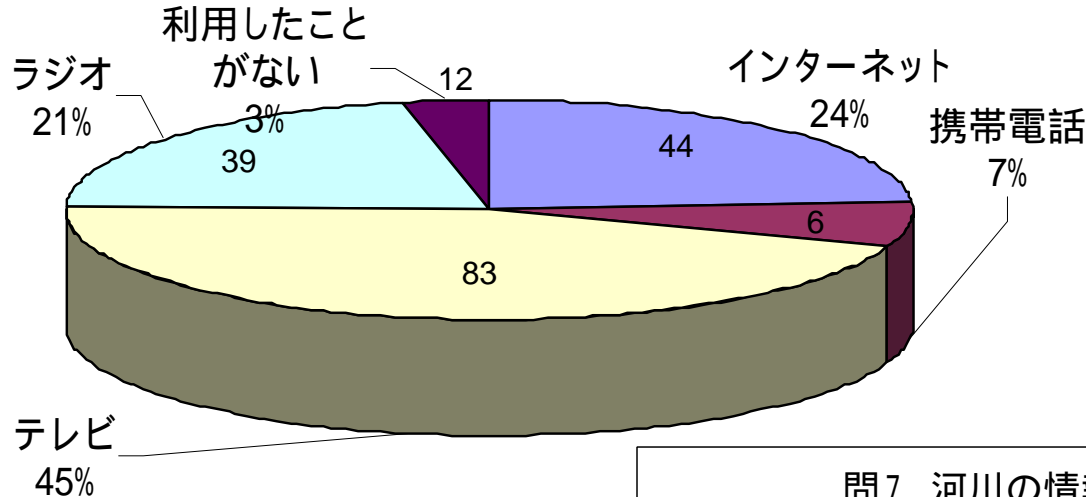
日頃意識する自然災害(水害体験者)



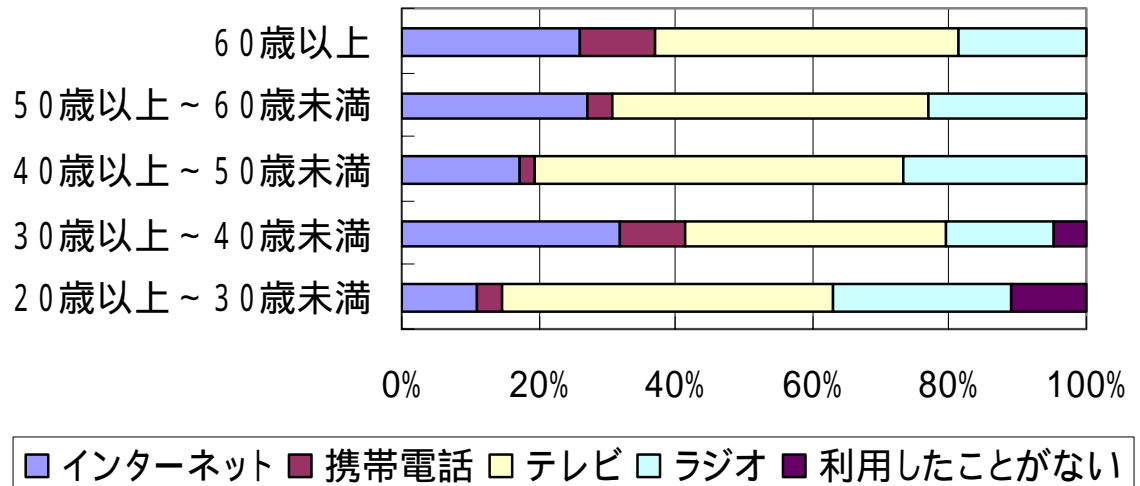
## 5. 河川情報の入手方法について

テレビによる情報入手が約5割と最も多く、次いでインターネットとラジオが2割台となっている。また、インターネットを活用した情報入手は30代と50歳以上の利用者に多い。

問7 河川の情報を得るための媒体は？



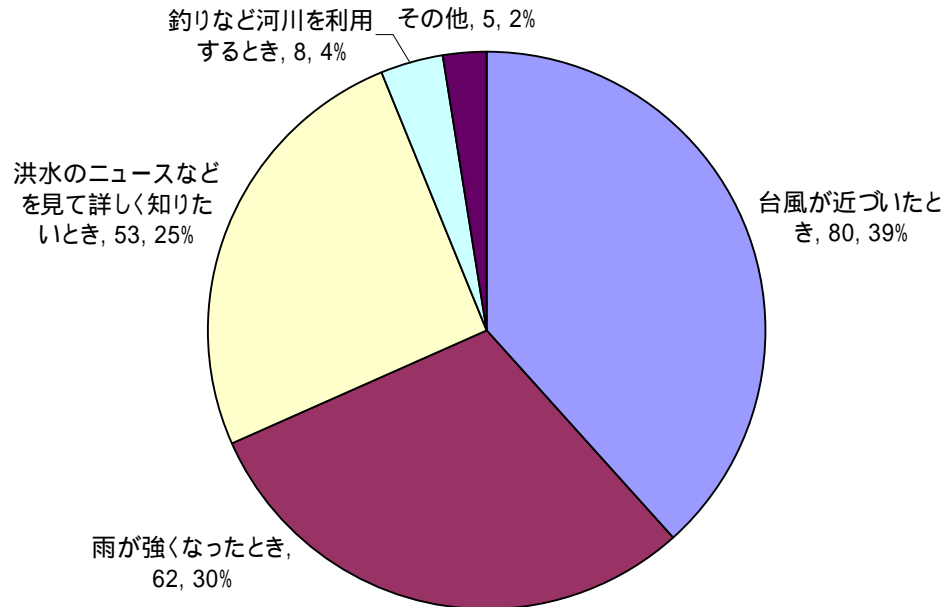
問7 河川の情報を得るための媒体は？ (年代別)



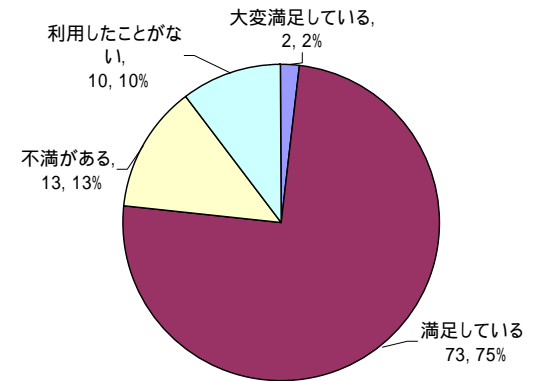
## 6. 河川情報の利用状況について

河川情報は、台風や大雨など災害の危険があるときに多く利用されている。また、約8割が提供される河川情報に満足している。一方、「居住地周辺の詳細な情報が知りたい」「予測の段階の情報が欲しい」等の意見があった。

問8 河川情報はどんなときに利用しますか？



問9 現在提供されている河川情報についてどのように思いますか？



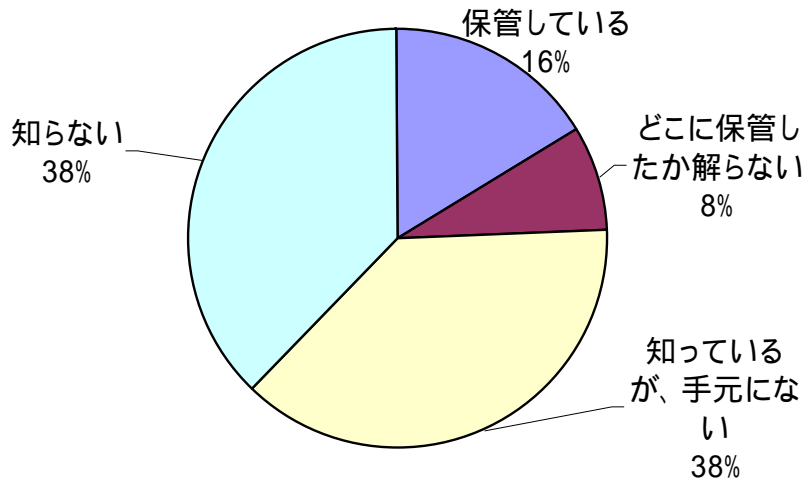
### < 河川情報に不満がある方の主な意見 >

- ・居住地近辺をピンポイントで詳しく把握したい。(男性、20歳代、秋田県)
- ・予測の段階の情報が欲しい。(男性、20歳代、秋田県)
- ・ライブカメラを度々利用しているが、カメラが対象から遠いため、良い情報として認識できない。(男性、60歳代、岩手県)
- ・刻々と状況が変わってゆくそのスピードに十分情報が対応できていない。(男性、50歳代、秋田県)
- ・テレビで詳しい河川情報を知るにはどうすれば良いかを知らせてくれると良い。(女性、40歳代、山形県)
- ・TVのニュースでは首都圏の情報は詳しいが、地方の状況についてはあまり詳しく流されない。(女性、40歳代、宮城県)

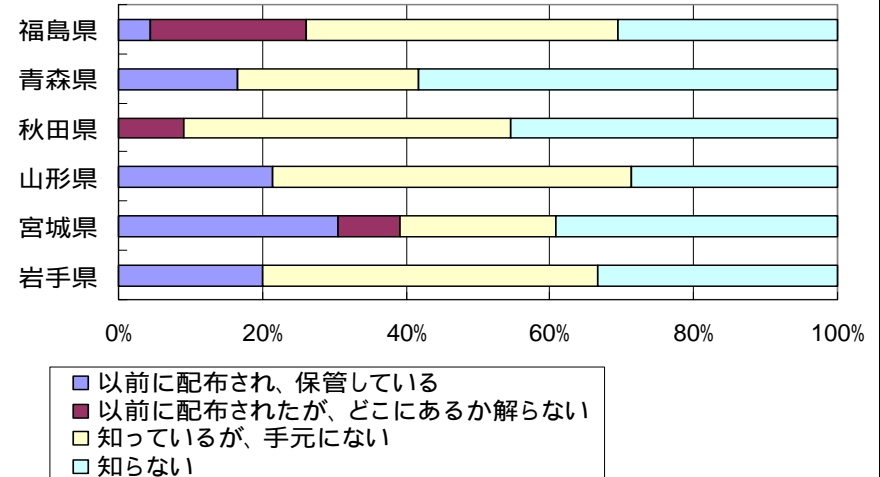
## 7. 洪水ハザードマップについて

「洪水ハザードマップ」の認知度は約6割であるが、配布され保管している人は2割弱と少なく、年代が若くなるほど認知度が低下している。また、避難するための日頃の備えでは「気象・河川情報に注意」が最も多く、「避難場所の位置」や「家族との連絡方法」を確認と答えた方が約3割となった。

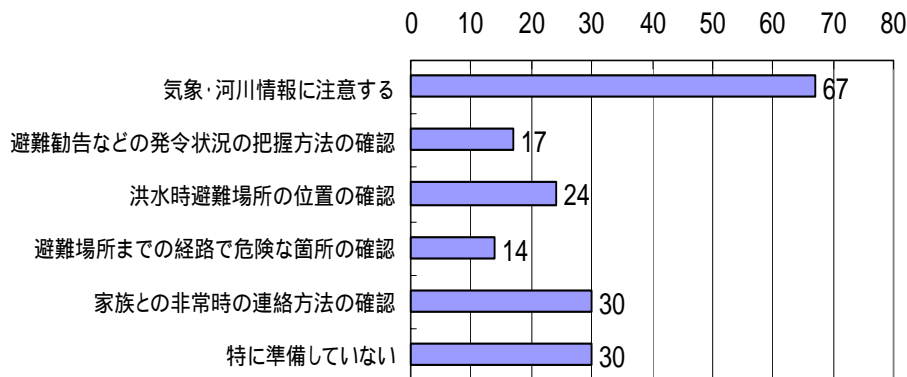
問10 洪水ハザードマップを知っていますか？



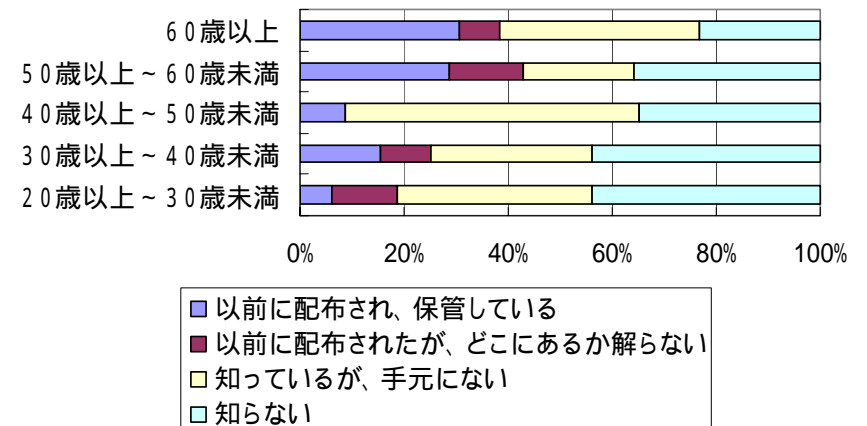
問10 洪水ハザードマップを知っていますか？(県別)



問11 洪水時に安全・確実に避難するために日頃の家庭での備え



問10 洪水ハザードマップを知っていますか？(年代別)



## 8. 洪水ハザードマップや災害時の情報提供について 自由回答

### 情報伝達の方法等(24件)

- ・災害発生の危険性があるときに、どのように我が家に知らされるのか全く知らない。(男性、30歳代、福島県)
- ・TVなどからの呼びかけも重要だが、避難が必要なレベルでなくても実際に車で河川付近を巡回しながらアナウンスして警告してほしい(女性、30歳代、宮城県)
- ・洪水・火山などをまとめて町内会集会所などに備えつけておき、いつでも住民が閲覧できるようにしてほしい。(男性、60歳代、福島県)
- ・停電時の情報提供方法(不安)(男性、30歳代、山形県)
- ・洪水ハザードマップは見たことがないので、もっと身近に見られるようにしてほしい。(女性、30歳代、山形県)
- ・水位が危険水域に近づいた際、防災警報が鳴りますが、その警報による危険度がよくわかりません。(すぐに避難が必要なのか、警戒していればよいのか等)。(女性、50歳代、青森県)
- ・災害時は出来るだけ早く情報をながして欲しい。(女性、30歳代、岩手県)
- ・大河川から外れた小河川(放水路、排水路等)の小地域の防災体制の確立が必要ではないか。(男性、60歳代、青森県)

### 避難場所(3件)

- ・洪水が起きた時どこに逃げればいいのかわからない。(女性、20歳代、福島県)
- ・避難場所に指定されているところが浸水の恐れがあるのが不安。(男性、30歳代、岩手県)

### ハザードマップの記載内容(4件)

- ・2年に1回くらいの頻度で最新情報の載ったマップを配布して欲しいです。これは必要なコストです。(男性、20歳代、秋田県)
- ・居住地の地図しかのってないことに不満があります。隣り町との境目に住んでおり、我が町より隣町の方の道路や田畑が氾濫しとても影響があります。(女性、30歳代、宮城県)

### 地域のコミュニケーションの重要性(3件)

- ・マスメディアがいかに高度化してきたと言っても、地域に根ざした情報には限界があります。広報車や地域の災害連絡網でのコミュニケーションが一番効果的と考えています。(男性、40歳代、秋田県)
- ・ご近所との連携が必要になるので、普段から地域の人達との交流が非常に大事である。(男性、60歳代、福島県)

## 提供される情報の内容(6件)

- ・携帯サイトなどで、リアルタイムに水位情報を配信して欲しい。(男性、40歳代、岩手県)
- ・ネットや携帯などを活用し必要な箇所の画像や地図情報とあわせ注意喚起情報も一緒に得られれば、住民及び地域外からも逐一その情報を見られるようになり、それぞれで的確な行動や救助対応がし易くなるのではないだろうか。(男性、50歳代、秋田県)
- ・都市型水害については日頃「河川」とかかわりのある生活をしていないのでなおのこと実感に乏しい。都市型水害(地下の浸水)などについての情報も発信されると良いのではないか。(女性、40歳代、宮城県)
- ・自治会・町内会レベルの、より密着した情報をリアルタイムで提供して欲しいと思う。(女性、20歳代、福島県)

## 洪水に対する意識(8件)

- ・(洪水への)関心があったので、マップはとても参考になりました。(女性、50歳代、宮城県)
- ・ニュースや広報などで知ることができるので安心してるところがある。(女性、30歳代、福島県)
- ・洪水の被害にあったことがないので、特に気にしてない。(女性、40歳代、宮城県)
- ・自治会・町内会レベルの、より密着した情報をリアルタイムで提供して欲しいと思う。(男性、40歳代、山形県)

## 広報の充実(17件)

- ・近年、自然災害もどんどん大きいものになっていきているのでマップの重要性などをもっと知らしめて多くの人が簡単に入手できるようにどこで入手できるかなどもっとアピールしてほしい。(女性、20歳代、宮城県)
- ・自然災害の、怖さを、いろいろな、機会に教えることが、大事とおもいます(男性、50歳代、岩手県)
- ・国交省のホームページの防災情報がパソコンや携帯で見れて大変役に立つということを知っている人がまだ少ないように思う。河川や道路のリアルタイム情報は、災害時だけでなく日常の生活にも役立つものなので、もっと広報するべきだと思う。(男性、40歳代、岩手県)
- ・災害が起きていない平常時にこそどのような方法で情報を提供しているかを広報すべきであると思う。(女性、30歳代、福島県)
- ・川からどれくらい離れたところからが安全なのかを、把握していないので道路などに分かりやすい標識などがあるとよいのではないだろうか。(女性、30歳代、福島県)

## 9. 河川についての意見・要望 自由回答

- ・河川敷をウォーキングやサイクリングロードとして整備を進めてるとともに、堤防の内側である河川敷に降りれる場所には、急激な増水を知らせる情報板や警報のシステムも一緒に整備して欲しい。(男性、30歳代、福島県)
- ・万一の時の避難の訓練をどの地域でも、官民一体となって定期的を実施することが必要になってきている。(男性、60歳代、福島県)
- ・治水は洪水を防ぐための堤防の設置など、最低限で十分。むしろ、昔のように河川に川魚が戻ってくるような環境を回復させる対策に税金を使ってください。(男性、20歳代、秋田県)
- ・河川周辺の低地は宅地としての開発や出来ないよう、開発制限区域の設定などの強制力のある法整備を検討出来ないものだろうか。(男性、20歳代、秋田県)
- ・国土交通省のHPでは河川のライブ映像があり、情報も常に更新されていたので詳しく知ることができた。(女性、30歳代、秋田県)
- ・市町村の予算格差によって、治水事業が進んでいる地域、進んでいない地域が顕著であるように見受けられる。地方分権も大切であると思うが、税収の少ない小規模自治体に対して、災害や事故が起きてからの行動でなく、その前に国の補助事業等において整備を進めて欲しい。(男性、30歳代、岩手県)
- ・護岸工事や、ダム建設は、自然とのバランスを、考えながら、進めるべきである。(男性、50歳代、岩手県)
- ・国交省の河川調査に参加して知らない身近な施設が沢山あることを知りました。管理出来ていない施設も多かったのには驚きでした。(女性、30歳代、山形県)
- ・秋田県北部の今回の水害被害の一番の原因はダムに依存し河川の整備が遅れていたことにあると思います。(男性、50歳代、秋田県)
- ・データ放送が増えてきているので、近くの川の情報を知ることが出来るようになると便利だと思います。(女性、30歳代、宮城県)
- ・今回の大雨の際に、初めて、大型分譲造成地にある調整池に8割以上の雨水等が貯留している状況を目にしたとき、五十年に一度の大雨を想定しての設計で設置されているという調整池の存在の重要さを初めて納得した。(男性、40歳代、秋田県)
- ・河川情報だけでなく、交通・気象等の情報を同時に迅速に伝えて欲しい。(女性、20歳代、福島県)
- ・被害があって初めて河川工事が始まる。仕方が無いことなのかも知れないが事前対策の重要性を感じる。(男性、60歳代、福島県)
- ・遊水地は洪水時の水量調節が主たる目的ではあるが、常には市民の憩いの場を提供しており、今後も積極的に進めるべきである。(男性、60歳代、青森県)
- ・体験上、河川の氾濫は本当に怖いものです。ですから、事前の情報を早く知りたいです。(男性、40歳代、青森県)